

国立大学法人静岡大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

静岡大学は、「自由啓発・未来創成」のビジョンに基づき、人材育成を旨とし、質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、国際感覚と高い専門性を有し、チャレンジ精神にあふれ、豊かな人間性を有する教養人を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、TOEIC の得点帯に応じて授業の必修単位数やレベル・授業のメニューを変えることにより意欲ある学生を支援すると同時に、得点が極端に低い学生には十分な補習の機会を与えて底上げを図るなどの英語科目に関するカリキュラム改革を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、産業界と連携したグローバル人材教育システムを構築し、アジアを中心とした企業の海外展開等を支える国際人材の育成に取り組む戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成26年度においては、留学生、日本人を対象とした人材育成プログラム「アジアブリッジプログラム (ABP)」を設置し、カリキュラムの整備や学生募集等の準備を進めるとともに、ABP の実施及び教育研究の交流促進に向けたアジア地域 (東南・南アジア地域) の協定大学との連携・協力体制を構築しているほか、グローバル改革推進機構職員として、コーディネーター5名、日本語教育教員2名、特任事務職員5名を採用するなど、ABP 推進体制の整備を行っている。

(機能強化に向けた取組状況)

理工系の修士課程教育において、広い融合的・学際的分野について俯瞰する能力と国際化対応能力を育成するために、平成27年度から理工系修士課程4研究科の統合による「総合科学技術研究科」の設置を決定し、カリキュラムや規則等の整備を行ったほか、教員組織と教育研究組織の分離に伴い、平成27年度から教員の所属組織である「学術院」の設置を決定しており、企画戦略会議の下に設けたガバナンス改革検討委員会において、「学術院」及び各教育研究組織における教育研究マネジメントの基本方針を決定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ TV会議システムの改善・活用による業務負担の軽減

会議室で利用する TV 会議の端末をすべてタブレット端末に変更するとともに、各附属学校及びフィールドに TV 会議システムを設置し、役員会等主要な会議において活用することにより、印刷や資料修正による業務等の会議開催のための事務的な負担を大幅に軽減している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 25 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①財務分析結果の活用、②外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、
③経費の抑制、④資産の運用管理の改善)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 寄附金獲得のための積極的な取組

平成 24 年度に設立した「静岡大学未来創成基金」の中に、3 件の特定基金（附属図書館浜松分館整備特定基金、附属静岡小学校教育環境整備特定基金、農学総合棟整備特定基金）を創設することにより寄附目的を明確化するなど、寄附金獲得のための積極的な取組を行った結果、約 5,200 万円の寄附を得ている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ ソーシャルメディアによる情報発信ルールの明確化

ソーシャルメディアによる情報発信に起因する事故を未然に防止するため、新たに「国立大学法人静岡大学ソーシャルメディアポリシー」を策定しており、情報発信ルールの明確化し、同メディアの多様な活用におけるリスクの低減を図っている。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 個人情報の不適切な管理

工学部研究室で管理しているサーバー内で、学生に関する情報がウェブサイトに掲載されて閲覧可能な状態になっていた事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 英語教育カリキュラムの体系的機能充実による学生の英語力向上

TOEIC の得点帯に応じて授業の必修単位数やレベル、授業のメニューを変えることによって意欲ある学生を支援すると同時に、得点の極端に低い学生には十分な補習の機会を与えて底上げを図るなど、英語科目に関するカリキュラム改革を行った結果、1 年次前学期終了時の TOEIC スコアについて、改革以前と比べて 600 点以上の学生数が約 30 % 増加するなどの成果を上げている。

○ 大学の立地特性を生かした森林生態学習プログラムの実践

暖温帯から樹木限界まで日本の植生を短時間で効率的に学習できる大学の立地的特色を最大限に活用し、演習林において「Field lecture in temperate forests around Mt. Fuji」を開催しており、平成 26 年度は、ガジャマダ大学やボゴール農科大学（共にインドネシア）等から 10 名の学生（大学院博士課程 1 名、大学院修士課程 5 名、学士課程 4 名）が参加し、各森林生態系の特徴と保全方法に関する野外講義や生理生態測定や群落構造の先端計測技術についての講義を実施している。

○ 文理融合型のグローバル人材育成プログラムの計画的推進

理工系の専門性に経営学的思考、文系の専門性に理工学的思考を合わせ持ち、技術と経営を俯瞰できるアジアを中心とする海外で活躍する中核・中堅人材を育成するた

め、「アジアブリッジプログラム」を平成 27 年 10 月から開始することとしており、留学生及び日本人学生のカリキュラムを整備するとともに、学士課程の現地入試をタイやベトナム等で実施している。

○ 卒業生も含めた全学対象のきめ細かな就職ガイダンス

平成 27 年度から実施される「就職解禁時期の変更」を想定し、全学対象のきめ細かい就職ガイダンスを行うとともに、未就職での卒業・修了生に対しても、在籍中と同様に求人情報の提供、学外からの相談予約を可能とし、ガイダンス等への積極的な参加を受入れているほか、平成 26 年 11 月には「保護者向け就職セミナー」を開催（約 400 名が参加）し、学生のみならず、保護者に対する就職活動への理解等を促進している。